

令和4年度 家串小学校 後期自己評価書

：郡内共通目標

：郡内共通目標

：郡内共通目標

赤字：郡統一貫事項関連

5ポイント以上改善

5ポイント以上低下

重点目標	評価指標及び目標値(期待される姿)	評価	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	アンケート結果(%)				
					4	3	2	1	?
1 確かな学力の定着と向上に努める	確かな学力の定着向上に向けて計画的・組織的に学習指導の工夫を行っているか。 目標値：教職員・保護者の85%以上が肯定	B	◇ 教職員の肯定率が前回100%に対して、今回80%になっている。保護者の肯定率は前回84.6%に対して今回91.6%と向上している。10月から行っている「ピシッと週間」[学力向上だより]によって、保護者への啓発が進んでいると考えられる。 ◆ 教員の資質向上のための研修が十分ではなかった。実践研究主題を意識した学習指導改善の研究を進めるため、授業研究の回数を増やし、実践を検証する機会を持つ。	教職員(Q1) R4前期 保護者(Q4) R4前期	60.0 0.0 8.3 23.1	20.0 100.0 83.3 61.5	20.0 0.0 8.3 15.4	0.0 0.0 0.0 0.0	0.0 0.0 0.0 0.0
	小規模校のよさを生かした個に応じたきめ細かい指導の充実に努め、児童に基礎・基本を身に付けさせることができるか。 目標値：単元末テスト(国語・算数)の正答率平均値が80点以上を達成。教職員の85%以上が肯定	B	◇ 教職員の肯定率は80%に下がった。2学期は行事等が多くあり、学習に集中できない雰囲気があったことが理由と考えられる。実際、単元末テストの結果も、1学期より下がっている。 ◆ 模試授業で身に付けることができる力(自学自習の力等)を今一度洗い出し、家串小だからこその学力向上のあり方を考えている。また、個人差が大きいことから、個に応じた支援を充実させる。その方法の一つとして放課後補充学習の時間を設定し、学習に困り感のある児童の指導を行う。(保護者の同意を得る。)(低学年)	教職員(Q4) R4前期 国語科78.4% 算数科82.0%(R4年度 1学期) 国語科73.2% 算数科82.3%(R4年度 2学期) 児童の肯定評価：68.2% (ピシッと週間チェック表)	40.0 40.0 78.4 73.2	40.0 60.0 82.0 82.3	20.0 0.0 0.0 0.0	0.0 0.0 0.0 0.0	0.0 0.0 0.0 0.0
	低学年30分、中学年45分、高学年80分以上の家庭学習の習慣が身に付いているか。 目標値：教職員・児童・保護者・の85%以上が肯定	C	◇ 教職員、保護者は、前回より若干評価が良くなっている。しかし児童の評価は、68.2%と下がっている。学習時間について、ピシッとカードの結果を見ると、10月65%、11月68%、12月65%の達成率である。この自己評価とほぼ合っている。児童は、家庭学習には取り組むものの、宿題の進め方についてよく理解していないと考える。 ◆ 月に1度、1週間の家庭学習調査を実施し、家庭学習の様子把握できたことを受けて、一度、学校で一斉に宿題をする機会を作り、設定時間分宿題をするということはどういうことなのか、集中して宿題をするとはどういうことなのか体感させる。	教職員(Q3) R4前期 児童(Q18) R4前期 保護者(Q5) R4前期	40.0 40.0 27.3 41.7 8.3 0.0	60.0 40.0 40.9 41.7 33.3 38.5	0.0 20.0 27.3 16.7 58.3 61.5	0.0 0.0 4.5 0.0 0.0 0.0	0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0
	コンピュータ等を使った学習は楽しいか。 目標値：教職員・児童の85%以上が肯定	A	◇ 教職員、児童ともに高評価である。教職員の4の評価が上がったのは、教職員自身が活用し慣れたからと考えられる。反対に、児童の4の評価が下がったのは、コンピュータへの慣れ、あるいはマンネリ化が考えられるが、むしろコンピュータの活用が当たり前になってきたとも考えられる。 ◆ コンピュータを利用することが目的ではなく、学習の手段となるような使い方を研修し、共通実践する。	教職員(Q2) R4前期 児童(Q5) R4前期	60.0 40.0 81.8 95.8	40.0 60.0 18.2 4.2	0.0 0.0 0.0 0.0	0.0 0.0 0.0 0.0	0.0 0.0 0.0 0.0
2 生徒指導の徹底と健全育成に努める	教育相談やアンケートなどを実施し、児童一人一人の悩みを把握し、いじめを解消する手立てを講じているか。 目標値：教職員・児童の85%以上が肯定	A	◇ 前期に引き続き、教職員、児童ともに肯定評価が100%を占めている。教職員間での情報共有を密に行ったことで、4の評価が100%になった。しかし、児童の中には、4から3の評価に下がった児童もあり、学校生活に少なからず不安や不満を感じている児童がいると考えられる。 ◆ 毎学期実施するなかよしアンケートや毎月の教育相談の結果を基に、教職員間での情報共有を続けるとともに、児童に見える形での指導(声掛け)をする。また、保護者への連絡も密に行い、家庭との連携を図る。	教職員(Q6) R4前期 児童(Q2) R4前期	100.0 40.0 72.7 79.2	0.0 60.0 27.3 20.8	0.0 0.0 0.0 0.0	0.0 0.0 0.0 0.0	0.0 0.0 0.0 0.0
	全ての児童が、楽しいと言える学校づくりに努めているか。 目標値：教職員・児童・保護者の85%以上が肯定	A	◇ 教職員、保護者ともに肯定的な評価である。学校行事やさまざまな教育活動において、児童が楽しいと思える雰囲気づくりに尽力していることが保護者にも伝わっている。しかし、学校が楽しくないと回答している児童が1人いる。これは、教師の指導の意図や目的が、適切に児童に伝わっていないのが要因と考えられる。 ◆ 今後も児童の挑戦を組織的に見守ったり、教育相談を充実させたりしながら、児童が楽しいと思える学校作りに努める。 ◆ 「全ての児童」ということを教員がしっかり意識し、児童のちよとした変化にも気付くことができるよう、職員間での情報共有を密にする。	教職員(Q7) R4前期 児童(Q1) R4前期 保護者(Q9) R4前期	80.0 40.0 72.7 83.3 41.7 23.1	20.0 60.0 22.7 16.7 58.3 69.2	0.0 0.0 4.6 0.0 0.0 7.7	0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0	0.0 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0
	児童は進んで挨拶ができているか。 目標値：教職員・児童・保護者・地域住民の85%以上が肯定	B	◇ 前期同様、児童の評価は高いが、それと比べて教職員、保護者、地域住民は低い。児童は、地域の方へ挨拶をしているつもりでも、気持ち良さという点で、相手に十分伝わっていないのではないかと考えられる。気持ちのよい挨拶について、継続して指導する必要があると考えられる。 ◆ 校内で気持ちのよい挨拶が出来る児童を称賞し、他の児童にも広げていく。また、登校指導の際には、教職員が率先して挨拶を行い、児童の模範となる。	教職員(Q15) R4前期 児童(Q7) R4前期 保護者(Q6) R4前期 地域住民(Q1) R4前期	0.0 0.0 54.5 75.0 8.3 7.7 15.4 24.0	60.0 40.0 31.8 12.5 66.7 69.2 50.0 52.0	40.0 60.0 9.1 12.5 25.0 23.1 23.1 20.0	0.0 0.0 4.6 0.0 0.0 0.0 0.0 0.0	0.0 0.0 4.6 0.0 0.0 0.0 7.7 4.0
3 教職員の資質・能力と学校組織の活性化	職場全体で意識改革を図り、業務の見直しなどによる働き方改革を進めているか。 目標値：教職員の85%以上が肯定	A	◇ 肯定率が下がっている。さまざまな行事や活動が再開され始め、それぞれの教員に負担がかかかっていると考えられる。ただ、仕事量が減ることが業務改善なのか、ウェルビーイングの視点から、働きがいややりがいについても考えるべきである。 ◆ 特定の教員に負担がかかることのないよう、公平感のある仕事の分担と、それぞれの教員が充実した仕事ができるような環境作りに努める。	教職員(Q12) R4前期	20.0 80.0	60.0 20.0	20.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0
	校内及び校外の研修に主体的に取り組み、自己研鑽に努めたか。 目標値：教職員の85%以上が肯定	A	◇ 肯定率は100%である。実践研究主題だけでなく、二つのプロジェクトについて話し合いをすることで、教育目標の具現化に教職員が意識的に取り組むことができたからだと考える。 ◆ 校外での授業研究会に、積極的に参加するように声掛けをする。また、研修計画にとらわれず、「いきなり授業公開」をするなど、お互いの授業力向上に取り組んでいくつもりでいたが、できていない。管理職を含め、全て教員の空き時間がないというのが大きき理由だが、少し無理をしても授業公開を進めていく。 ◆ 来年度は、柏小学校と研究交流会を実施する。その計画を今年度の内に進めておく。	教職員(Q11) R4前期	80.0 60.0	20.0 40.0	0.0 0.0	0.0 0.0	0.0 0.0

4	豊かな心を育てる教育の推進	友達や教職員、地域の人々との交流を通して、思いやりの心や、優しい態度が育っているか。 目標値：教職員・保護者・地域住民の85%以上が肯定	B	◇ 前期と比較すると、全体的に評価が下がっている。保護者の評価はあまり変化していないが、地域住民の肯定評価が10.3ポイント減少し、分からないの回答が増加している。前期と比べ、地域との交流を増やそうと試みたが、それらの交流が思いやりの心や優しい態度の育成につながっていない。また、家庭や地域での児童の様子と学校での児童の様子に差があることも要因の一つと考えられる。 ◆ さまざまな行事を通して地域とのふれあいや、道徳科を核とした全ての教育活動において、思いやりの心や優しい態度の育成を図る。さらに、児童の様子をよく観察し、気になったことは教職員間で情報共有したり家庭と密に連携したりして対応していく。	<table><tr><td>教職員(Q8)</td><td>0.0</td><td>100.0</td><td>0.0</td><td>0.0</td><td></td></tr><tr><td>R4前期</td><td>20.0</td><td>80.0</td><td>0.0</td><td>0.0</td><td></td></tr><tr><td>保護者(Q3)</td><td>41.7</td><td>50.0</td><td>8.3</td><td>0.0</td><td></td></tr><tr><td>R4前期</td><td>38.5</td><td>53.8</td><td>7.7</td><td>0.0</td><td>0.0</td></tr><tr><td>地域住民(Q2)</td><td>19.2</td><td>38.5</td><td>15.4</td><td>0.0</td><td>23.1</td></tr><tr><td>R4前期</td><td>24.0</td><td>44.0</td><td>16.0</td><td>0.0</td><td>16.0</td></tr></table> 教職員の肯定評価：100% 保護者の肯定評価：91.7% 地域住民の肯定評価：57.7%	教職員(Q8)	0.0	100.0	0.0	0.0		R4前期	20.0	80.0	0.0	0.0		保護者(Q3)	41.7	50.0	8.3	0.0		R4前期	38.5	53.8	7.7	0.0	0.0	地域住民(Q2)	19.2	38.5	15.4	0.0	23.1	R4前期	24.0	44.0	16.0	0.0	16.0
	教職員(Q8)	0.0	100.0	0.0	0.0																																				
	R4前期	20.0	80.0	0.0	0.0																																				
保護者(Q3)	41.7	50.0	8.3	0.0																																					
R4前期	38.5	53.8	7.7	0.0	0.0																																				
地域住民(Q2)	19.2	38.5	15.4	0.0	23.1																																				
R4前期	24.0	44.0	16.0	0.0	16.0																																				
	地域の人々との交流活動や勤労・奉仕などの体験活動の推進に努めたか。 目標値：教職員の85%以上が肯定	B	◇ 前期に比べ肯定率は80%となり、評価もBに下がっている。コロナ禍でありながら、さまざまな工夫をして学校行事やボランティア活動を行ってきたが、交流の時期や持ち方については課題があったと考えられる。 ◆ 地域の自然や文化、海を題材とし、生活科や総合的な学習の時間を中心に、地域との交流を深め	<table><tr><td>教職員(Q10)</td><td>60.0</td><td>20.0</td><td>20.0</td><td>0.0</td><td></td></tr><tr><td>R4前期</td><td>33.3</td><td>66.7</td><td>0.0</td><td>0.0</td><td></td></tr></table> 教職員の肯定評価：80%	教職員(Q10)	60.0	20.0	20.0	0.0		R4前期	33.3	66.7	0.0	0.0																										
教職員(Q10)	60.0	20.0	20.0	0.0																																					
R4前期	33.3	66.7	0.0	0.0																																					
	認め合い、支え合い、高め合う支持的風土をもった集団づくりに努めたか。 目標値：教職員・児童・保護者の85%以上が肯定	A	◇ 教職員の肯定率は100%となり、全教職員が一丸となって支持的風土づくりに努めたことがうかがえる。それに伴い、児童の肯定率も上昇している。しかし、不満を感じている児童も存在する。どの子も大切にされていると感じるような集団作りの手立てが不足していたとも考えられる。 ◆ 前期同様、集会和終わりの会等で、児童相互が友達の良さを伝え合ったり友達への感謝を伝えたりする場を設定し、学校全体の支持的風土を醸成する。	<table><tr><td>教職員(Q9)</td><td>100.0</td><td>0.0</td><td>0.0</td><td>0.0</td><td></td></tr><tr><td>R4前期</td><td>0.0</td><td>80.0</td><td>20.0</td><td>0.0</td><td></td></tr><tr><td>児童(Q11)</td><td>36.4</td><td>59.1</td><td>4.5</td><td>0.0</td><td></td></tr><tr><td>R4前期</td><td>54.2</td><td>25.0</td><td>12.5</td><td>8.3</td><td></td></tr></table> 教職員の肯定評価：100% 児童の肯定評価：95.5%	教職員(Q9)	100.0	0.0	0.0	0.0		R4前期	0.0	80.0	20.0	0.0		児童(Q11)	36.4	59.1	4.5	0.0		R4前期	54.2	25.0	12.5	8.3														
教職員(Q9)	100.0	0.0	0.0	0.0																																					
R4前期	0.0	80.0	20.0	0.0																																					
児童(Q11)	36.4	59.1	4.5	0.0																																					
R4前期	54.2	25.0	12.5	8.3																																					
5	健康教育の推進	児童は健康に気を付け、元気に学校生活を送ることができているか。 目標値：「全員出席の日」授業日数の75%以上を達成	A	◇ 全員出席の日は2学期末現在で、109日(75.2%)であり、目標値の75%以上を達成した。給食を食べる量も増え、朝マラソンの再開やピシッと週間の実施なども児童の健康的な生活に大きく影響していると考えられる。しかし、昨年度の2学期末での全員出席の日は135日(90.26%)あり、昨年度よりも欠席日数が増加している。コロナウィルス感染症による欠席も大きな要因と考える。 ◆ 生活習慣チェックの結果やピシッとカードの結果を踏まえると、早寝早起きの習慣が定着していない児童が多い。睡眠の重要性に関する内容の啓発を行う。	<table><tr><td>R4後期</td><td>109.0</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>R4前期</td><td>50.0</td><td>50.0</td><td>0.0</td><td>0.0</td><td></td></tr></table> 2学期末で109日(75.2%)達成 1学期末で50日(73.5%)達成	R4後期	109.0					R4前期	50.0	50.0	0.0	0.0																									
	R4後期	109.0																																							
	R4前期	50.0	50.0	0.0	0.0																																				
	朝マラソン、放課後の体育的活動を中心に、児童の体力増進と健康の保持増進に積極的に取り組めたか。 目標値：教職員・児童・保護者の85%以上が肯定	A	◇ 前期と比較すると、全体的に肯定評価が増加していることが分かる。特に、児童の肯定評価は19.7ポイント増加しており、児童が自分の取組を肯定的に捉えていると考えられる。朝マラソンの様子からも1学期に比べ、「頑張ろう」と自分を鼓舞する様子が見られた。 ◆ 3学期に入り、ふれあいマラソンや校内持久走大会に向けた練習が始まるが、大会が終わった後にも賞賛する声掛けを続け、児童のやる気を継続させる。また体育科において、各学年に応じた運動量を確保することで、児童自身が体力の向上を感じるようにさせる。	<table><tr><td>教職員(Q16)</td><td>60.0</td><td>40.0</td><td>0.0</td><td>0.0</td><td></td></tr><tr><td>R4前期</td><td>40.0</td><td>40.0</td><td>20.0</td><td>0.0</td><td></td></tr><tr><td>児童(Q16)</td><td>40.9</td><td>45.5</td><td>13.6</td><td>0.0</td><td></td></tr><tr><td>R4前期</td><td>37.5</td><td>29.2</td><td>29.2</td><td>4.1</td><td></td></tr><tr><td>保護者(Q10)</td><td>25.0</td><td>58.3</td><td>16.7</td><td>0.0</td><td>0.0</td></tr><tr><td>R4前期</td><td>23.1</td><td>61.5</td><td>15.4</td><td>0.0</td><td>0.0</td></tr></table> 教職員の肯定評価：100% 児童の肯定評価：86.4% 保護者の肯定評価：83.3%	教職員(Q16)	60.0	40.0	0.0	0.0		R4前期	40.0	40.0	20.0	0.0		児童(Q16)	40.9	45.5	13.6	0.0		R4前期	37.5	29.2	29.2	4.1		保護者(Q10)	25.0	58.3	16.7	0.0	0.0	R4前期	23.1	61.5	15.4	0.0	0.0	
教職員(Q16)	60.0	40.0	0.0	0.0																																					
R4前期	40.0	40.0	20.0	0.0																																					
児童(Q16)	40.9	45.5	13.6	0.0																																					
R4前期	37.5	29.2	29.2	4.1																																					
保護者(Q10)	25.0	58.3	16.7	0.0	0.0																																				
R4前期	23.1	61.5	15.4	0.0	0.0																																				
	「早寝、早起き、朝ごはん」の習慣が身に付いているか。 目標値：児童・保護者の85%以上が肯定	B	◇ 児童、保護者ともに肯定評価が高い。目標値の85%には達していないが、子どもの食育教室やピシッと週間の実施により、保護者からの協力も得られ、高い肯定率につながったと考えられる。 ◆ 「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発を継続していく。早寝・早起きについてはゲームやSNSの利用によって、守れていない児童が多いため、保健だよりなどを通じ、工夫して家庭と連携していく。	<table><tr><td>児童(Q17)</td><td>50.0</td><td>31.8</td><td>18.2</td><td>0.0</td><td></td></tr><tr><td>R4前期</td><td>50.0</td><td>33.3</td><td>16.7</td><td>0.0</td><td></td></tr><tr><td>保護者(Q8)</td><td>8.3</td><td>75.0</td><td>16.7</td><td>0.0</td><td>0.0</td></tr><tr><td>R4前期</td><td>7.7</td><td>69.2</td><td>23.1</td><td>0.0</td><td>0.0</td></tr></table> 児童の肯定評価：81.8% 保護者の肯定評価：83.3%	児童(Q17)	50.0	31.8	18.2	0.0		R4前期	50.0	33.3	16.7	0.0		保護者(Q8)	8.3	75.0	16.7	0.0	0.0	R4前期	7.7	69.2	23.1	0.0	0.0													
児童(Q17)	50.0	31.8	18.2	0.0																																					
R4前期	50.0	33.3	16.7	0.0																																					
保護者(Q8)	8.3	75.0	16.7	0.0	0.0																																				
R4前期	7.7	69.2	23.1	0.0	0.0																																				
6	安全・安心な学校づくりの推進	防災に努め、定期的な点検を実施し、施設・設備の維持管理、安全確保に努めているか。 目標値：教職員・保護者・地域住民の85%以上が肯定	A	◇ 教職員は4の評価が100%となったが、保護者の肯定的な意見は減少傾向にあり、2の評価も見られた。また、地域住民の評価もかなり下がっている。地域を巻き込んだ防災訓練ができなかったことも関連していると考えられる。 ◆ 今年度は、町総合防災訓練に参加したため、地域独自の防災訓練は行っていない。次年度は、地域の総合防災訓練として実施する。 ◆ 本校の立地条件を考慮し、津波や土砂災害災害の避難訓練、また予告なしの避難訓練など、より実効性の高い訓練を実施する。	<table><tr><td>教職員(Q14)</td><td>100.0</td><td>0.0</td><td>0.0</td><td>0.0</td><td></td></tr><tr><td>R4前期</td><td>60.0</td><td>40.0</td><td>0.0</td><td>0.0</td><td></td></tr><tr><td>保護者(Q12)</td><td>25.0</td><td>66.7</td><td>8.3</td><td>0.0</td><td></td></tr><tr><td>R4前期</td><td>30.8</td><td>69.2</td><td>0.0</td><td>0.0</td><td>0.0</td></tr><tr><td>地域住民(Q7)</td><td>15.4</td><td>50.0</td><td>3.8</td><td>3.8</td><td>23.1</td></tr><tr><td>R4前期</td><td>32.0</td><td>63.0</td><td>5.0</td><td>0.0</td><td>0.0</td></tr></table> 教職員の肯定評価：100% 児童の肯定評価：100% 保護者の肯定評価：91.7%	教職員(Q14)	100.0	0.0	0.0	0.0		R4前期	60.0	40.0	0.0	0.0		保護者(Q12)	25.0	66.7	8.3	0.0		R4前期	30.8	69.2	0.0	0.0	0.0	地域住民(Q7)	15.4	50.0	3.8	3.8	23.1	R4前期	32.0	63.0	5.0	0.0	0.0
	教職員(Q14)	100.0	0.0	0.0	0.0																																				
	R4前期	60.0	40.0	0.0	0.0																																				
保護者(Q12)	25.0	66.7	8.3	0.0																																					
R4前期	30.8	69.2	0.0	0.0	0.0																																				
地域住民(Q7)	15.4	50.0	3.8	3.8	23.1																																				
R4前期	32.0	63.0	5.0	0.0	0.0																																				
	防災教育の充実を図り、自分の命は自分で守るという態度は育っているか。 目標値：教職員・児童の85%以上が肯定	A	◇ 教職員、児童とも肯定率が100%である。特に児童は、95.5%が4の評価である。子どもたち一人一人に防災意識が育っていることが分かる。 ◆ 今後も、避難訓練を工夫し、子どもたちの防災意識や防災スキルを高めていく。 ◆ 防災リユークの自身の定期的な点検を行う。	<table><tr><td>教職員(Q17)</td><td>100.0</td><td>0.0</td><td>0.0</td><td>0.0</td><td></td></tr><tr><td>R4前期</td><td>40.0</td><td>60.0</td><td>0.0</td><td>0.0</td><td></td></tr><tr><td>児童(Q13)</td><td>95.5</td><td>4.5</td><td>0.0</td><td>0.0</td><td></td></tr><tr><td>R4前期</td><td>95.8</td><td>4.2</td><td>0.0</td><td>0.0</td><td></td></tr></table> 教職員の肯定評価：100% 児童の肯定評価：100%	教職員(Q17)	100.0	0.0	0.0	0.0		R4前期	40.0	60.0	0.0	0.0		児童(Q13)	95.5	4.5	0.0	0.0		R4前期	95.8	4.2	0.0	0.0														
教職員(Q17)	100.0	0.0	0.0	0.0																																					
R4前期	40.0	60.0	0.0	0.0																																					
児童(Q13)	95.5	4.5	0.0	0.0																																					
R4前期	95.8	4.2	0.0	0.0																																					
7	その他 学校運営協議会委員の所見	【1 確かな学力の定着と向上に努める】 ○先生方の負担は大きいと思うが、小規模校の良さを活かして、個人に応じたきめ細かな指導を、さらに充実させてほしい。しかしながら、唯一のC評価である「家庭学習の習慣」向上の対応策である。宿題への取組方法などを学校で一斉に教えることは、更なる先生方の負担増につながるから、可能な限り家庭(保護者)の協力を得て行う必要があると考ええる。○保護者の認識が上がったことは良いことだと感じる。○学校で宿題練習をすることは、良いことだと感じる。○コンピュータを使っての学習が当たり前になっている中で、先生方が苦心した学習成果にされていることがよく分かる。○小学校らしい勉強は、今できなくても、そのうちできるようにと思う。個人的な意見だが、家庭学習は自由、子どもは学校以外では子どもらしくを出した方がいいと思う。○家で家庭学習がしっかりとできており、向上してよかった。○学校で一斉に宿題をするという案は、良いと思う。どれくらい時間、どの勉強をするかということが分かる。クロームブックを使っての勉強はとも良い。子どもやる気を出しやすく、何より、書で学校に行けなかった時のオンライン授業が良かった。 【2 生徒指導の徹底と健全育成に努める】 ○挨拶については、前期と同様、児童の評価は高いが、教職員・保護者・地域住民の評価が低い。改善策である気持ちの良い挨拶ができていない児童を称賛していくことは、他の児童に良い影響を与えると考える。○引き続き頑張っていたきたい。○小規模校ならではの利点である子どもたちの姿を捉えられていて良いと思う。○学校生活に不安や不満を感じている子や、学校が楽しくないという子どもがいることが分りひびく。○子どもたちの間では挨拶をしているが、相手に気持ちよさがないし、子どもらしい元気さがないのかと思った。○家庭でも子どもとの会話を通じて、不安などないか気にしていきたい。○毎月の教育相談があるのが良い。先生と個別に話をする機会はないかな。担任とは違う先生と相談することで話をしやすくなるかもしれない。そうやって、子どもたちとコミュニケーションを取ってもらってありがたい。 【3 教職員の資質・能力と学校組織の活性化】 ○近年、コロナ禍の中で行事や業務の見直しを余儀なくされ、それに感染防止という業務も付加され、教職員は大変な状況であると思うが、特定の教職員に負担がかかり過ぎないような環境づくりに努めており、今後も継続した取組を望む。○できる時期やできない時期があると思うので、年間でバランスをとって行ってほしい。○小規模校ならではの悩みが見える。○行事などの活動が再開されるのはうれしいが、先生方の負担が増えるのは申し訳ない。○先生は十分いろいろしてくださっているし、保護者にも気を使っていると思う。だから、あまり無理をしないようにしてほしい。 【4 豊かな心を育てる教育の推進】 ○思いやりの心と優しいさは他者から受けて育つとも言われるが、これからwithコロナという考えの中で、地域の人・自然・文化との交流の場が広がることを期待する。○初年度なので、大変な部分が多いのではないかと。○先生方がその場において、児童が地域と関わる方法を探ってみてもいいのではないかと感じる。例えば、消防団に参加してみる等。○一人一人を大切に、これからはもっと引き続きお願いしたい。○コロナ禍では、地域の方たちと交流もできている方だと思う。○家車ならではの海洋学習は、良いことだと思う。○友達への感謝を伝えたりする場を設定するのは、とても良いと思う。○家車小は児童数が少ないので、児童や保護者、地域と距離が近いと思う。門松作りやクリスマス、学習発表会の荒獅子など、とても良かった。 【5 健康教育の推進】 ○「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣については、「食育教育」や「ピシッと週間」の実施により保護者の協力も得られ、高い肯定につながっているとのことである。今後も継続した取組を望む。○「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣は、なかなか身に付かないと思う。家庭と連携し、少しずつでも進んでいるので良いと思う。○保健だよりにチャレンジ項目があるので、子どもも意識して取り組むことができる(バランスの良い朝ごはん等)○早寝・早起き・朝ごはんは、親の仕事の都合にもよると思う。もちろん、子どもの夜更かしなどもあるかもしれないが、親の仕事の帰りが遅いと、ご飯も遅くなる。朝も食べない家庭だと、子どもが食べるのも難しい。家庭によっては、なかなか大変だと思う。 【6 安全・安心な学校づくりの推進】 ○子どもたちの防災意識・防災スキルは大変高く、今後も維持していかなければならない。また、家車小学校を中心とした3地区合同の防災訓練を定期的に実施するなど、今後とも継続した取組をお願いしたい。○防災については、危機意識を持って行っているから、とても良いと感じる。災害時に一人でも多くの子どもたちが助かるように、引き続き頑張っていたきたい。○今の子どもたちは、自分の命は自分で守ることが、よくできていると思う。防災への理解もよくしている。○子どもたちの防災意識がしっかりとれているので、親の方からも勉強になる。○訓練は、どれだけしてもいい。実際に災害になった時にあわてないように、訓練通りにできるように、避難の仕方もしっかり身に付けさせたい。																																							